

化学・繊維

1. 評価対象企業（19 社）

帝人、東レ、クラレ、旭化成、昭和電工、住友化学、東ソー、信越化学工業、エア・ウォーター、大陽日酸、カネカ、三井化学、J S R、三菱ケミカルホールディングス、ダイセル、積水化学工業、宇部興産、日立化成、日本ペイントホールディングス（新規）

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	6	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	32
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	5	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	5	14
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	10
計		25	100

（注）評価項目の内容および配点は 29 頁参照

（2） 評価実施アナリストは 26 名（21 社）である。（30 頁参照）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（28 頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**および**コーポレート・ガバナンス関連**において、項目の新設、内容・配点変更を行い、評価を実施した。また、新規の企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 73.5 点（昨年度 73.8 点）、総合評価点の標準偏差は 8.8 点（昨年度 7.0 点）となった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 74%（昨年度 75%）、**説明会等**が 74%（昨年度 75%）、**フェア・ディスクロージャー**が 82%（昨年度 84%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 69%（昨年度 68%）、**自主的情報開示**が 65%（昨年度 63%）となり、各分野とも昨年度とほぼ同水準となった。なお、**コーポレート・ガバナンス関連**と**自主的情報開示**が他の分野に比べて低水準となっているが、この傾向は例年と変わらない。
- ③ 評価項目について見ると、全 25 項目中次の 5 項目が、80%以上の得点率（評価点／配点（以下省略））となり、特に、(a)(b)においては全社満点となった。

- (a) 「ホーム・ページ、説明会資料、アニュアルレポート等の英語対応がなされていますか」（平均得点率 100%）
- (b) 「四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していますか」（平均得点率 100%）
- (c) 「ホーム・ページを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等）を行っていますか」（平均得点率 99%）（得点率：100%17 社・90%2 社）
- (d) 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平

均得点率 84%) (得点率：90%3 社・80%台 13 社)

- (e)「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等）の開示は、遅滞なく行われていますか」（平均得点率 80%）（得点率：90%1 社・80%台 10 社）

④ 一方、次の項目は、平均得点率が 65%以下となり低水準であった。

- (f)「工場見学、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか」（平均得点率 61%〔昨年度 58%〕）（得点率：20%台 1 社・40%台 3 社・50%台 4 社）

- (g)「資本政策（資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株）に関し十分な説明がされていますか」（平均得点率 62%〔昨年度 64%〕）（得点率：30%1 社・40%2 社・50%台 4 社）

⑤ 本年度新設した下記 2 項目については、次のとおりとなった。

- (h)「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか」（平均得点率 76%）（得点率：90%1 社・80%台 6 社・70%台 7 社・60%台 5 社）

- (i)「非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率 69%）（得点率：90%1 社・80%台 3 社・70%台 5 社・60%台 7 社・50%台 3 社）

⑥ なお、事業買収の成否を判断する上で必要な定量情報の開示充実を望む声があった。

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三井化学（ディスクロージャー優良企業〔3 回連続 3 回目〕、総合評価点 89.8 点〔昨年度比+3.2 点〕

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率（以下省略）93%）、**説明会**（89%）、**フェア・ディスクロージャー**（92%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（86%）が第 1 位、**自主的情報開示**が第 2 位（87%）となった。5 分野全てにおいて、昨年度比得点率が改善し、総合評価点の上昇（上昇幅第 4 位）につながるとともに、全 25 評価項目中 18 項目で単独または同得点第 1 位となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが経営概況説明会等において、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていることが最も高く評価されたほか、**IR の重要性の認識**、十分な人員配置、**IR 部門への権限委譲**、情報集積の支援等も含め、経営陣の **IR 姿勢**も最も高い評価となった。また、**IR 部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積され、IR 担当者**と有益なディスカッションができることも最も高く評価された。さらに、会社にとって悪材料もフェアに開示するなど、業績に関わらず必要な定量・定性情報を発信し、今後の改善の展望を示していることも極めて高い評価となった。なお、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が第 1 位、「非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が第 2 位となった。
- ③ **説明会等**においては、決算説明会における説明が十分であることに加え、インタビューにおける補足説明が十分であることが最も高く評価された。また、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が入手できるほか、説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていることも評価された。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることも極めて高い評価となった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢に加えて、ホーム・ページを利用して説明会または電話会議のリプレイ（質疑応答、議事録を含む）が速やかに視聴等できることが極めて高く評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていることが高く評価された。また、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE 等）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていることが高く評価されたことに加え、中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が十分に説明されていることも最も高く評価された。さらに、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「資本政策の説明」に関して、平均得点率を 18 ポイント上回る評価となった。加えて、配当政策・自社株買いなど株主還元策に関しては、総還元性向目標

の説明などが評価された。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等の開催」に関して、国内外の施設見学会や事業戦略に関する説明会を開催し、かつその内容が充実していたことが高く評価された。また、「ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書等」に関しては、「統合レポート」の内容が分かりやすくなったことなどで極めて高く評価された。さらに、開示された公開情報について、E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していることも高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 住友化学（総合評価点 87.9 点〔昨年度比+4.0 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第 1 位（88%）、**経営陣の IR 姿勢等**（90%）、**説明会等**（87%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（85%）が第 2 位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 5 位（88%）となった。昨年度比同得点率となった**フェア・ディスクロージャー**を除く 4 分野において得点率が改善し、総合評価点の上昇（上昇幅第 3 位）につながった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが経営戦略説明会等において、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていることが極めて高く評価されたほか、IR の重要性の認識、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等も含め、経営陣の IR 姿勢も極めて高い評価となった。また、IR 部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積され、IR 担当者と有益なディスカッションができることも極めて高く評価された。さらに、会社にとって都合の悪い情報、弱点、低収益あるいは赤字の事業についても開示を行い、今後の改善の展望を示していることも評価された。なお、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第 2 位、「非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が第 1 位となった。同社の ESG 情報の発信について優れているとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、決算説明会における説明が十分であることに加え、インタビューにおける補足説明が十分であることも高く評価された。また、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が入手でき、その補足資料が改善したとの声があった。さらに、説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていることが最も高い評価となった。加えて、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることも極めて高く評価された。なお、IFRS 採用後の非経常項目の開示充実を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢に加えて、ホーム・ページを利用して説明会または電話会議のリプレイ（質疑応答、議事録を含む）が速やかに視聴等できることが極めて高く評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていることが高く評価された。また、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE 等）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていることが最も高い評価となったことに加え、中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が十分に説明されていることも極めて高い評価となった。さらに、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「資本政策の説明」に関して、平均得点率を 18 ポイント上回る評価となった。加えて、配当政策・自社株買いなど株主還元策の説明についても評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等の開催」に関して、「事業説明会」や充実した内容の国内外の施設見学会が高く評価された。また、「ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書等」に関しては、事業環境や業界情報の説明が充実している「インベスターズハンドブック」が秀逸していることなどにより、この評価項目について最も高く評価された。さらに、開示された公開情報について、E-mail 等を利用して能動的かつ適切に周知していることも評価され、この分野において最も高い評価となった。

第 3 位 昭和電工（総合評価点 83.1 点〔昨年度比+4.5 点〕、昨年度第 5 位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が第 2 位（91%）、**説明会等**が第 3 位（86%）、**経営陣の IR 姿勢等**が同

得点第3位(83%)、コーポレート・ガバナンス関連が第5位(80%)、自主的情報開示が第6位(72%)となった。5分野全てにおいて、昨年度比得点率が改善し、総合評価点および順位の改善(総合評価点の上昇幅第2位、順位の昇幅同点第2位)につながった。

- ② 経営陣のIR姿勢等においては、経営トップが決算説明会等において、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていることが評価されたほか、IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等も含め、全体として経営陣のIR姿勢が評価された。また、IR部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積され、IR担当者と有益なディスカッションができることも評価された。さらに、会社にとって都合の悪い情報、弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していることも極めて高い評価となった。特に、SGL GE(米国黒鉛電極事業会社)買収および買収における米国資産売却等の説明は高く評価されるとの声があった。なお、「フェア・ディスクロージャー・ルール」の導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第2位、「非財務情報(ESG情報等)の開示に積極的に取り組んでいること」が第6位となった。
- ③ 説明会等においては、決算説明会における説明が十分であることに加え、インタビューにおける補足説明が十分であることも極めて高く評価された。また、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が入手できるほか、説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていることも評価された。さらに、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることも極めて高い評価となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢に加えて、ホーム・ページを利用して、説明会または電話会議のリプレイ(質疑応答、議事録を含む)が速やかに視聴等できることが極めて高く評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていることが評価された。また、重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE等)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていることが評価されたことに加え、中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が十分に説明されていることも極めて高い評価となった。さらに、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「資本政策の説明」に関して、平均得点率が11ポイント上回った。なお、配当性向等の定量的目標についての説明が不十分との声があった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ 三菱ケミカルホールディングス(総合評価点80.7点[昨年度比+5.7点]、第5位[昨年度第8位])

- ① 同社は、自主的情報開示が同得点第3位(75%)、コーポレート・ガバナンス関連が第4位(82%)、経営陣のIR姿勢等が第5位(81%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第5位(88%)、説明会等が第7位(78%)となった。昨年度比同得点率となったフェア・ディスクロージャーを除く4分野において、得点率が改善し、総合評価点および順位の改善(総合評価点の上昇幅、順位の昇幅ともに第1位)につながった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、経営トップが事業説明会等において、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていることが高く評価されたほか、IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等も含め、経営陣のIR姿勢が高い評価となった。なお、「非財務情報(ESG情報等)の開示に積極的に取り組んでいること」が第3位、「フェア・ディスクロージャー・ルール」の導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第10位となった。
- ③ コーポレート・ガバナンス関連においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていることが高い評価となった。また、重視する経営指標(例えば、営業利益率、ROE等)とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていることが評価されたことに加え、中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が十分に説明されていることも極めて高い評価となった。さらに、配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に、十分に説明されていることも評価された。
- ④ 自主的情報開示においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等の開催」に関して、IR Dayや事業所見学会を開催し、その内容が充実していたことが評価された。また、「ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書等」に関しては、「KAITEKIレポート」の内容が充実していることも評価された。

以 上

2018年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (化学・繊維)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4183 三井化学	89.8	29.7	1	28.4	1	11.0	1	12.0	1	8.7	2	1
2	4005 住友化学	87.9	28.9	2	27.7	2	10.6	5	11.9	2	8.8	1	2
3	4004 昭和電工	83.1	26.4	3	27.4	3	10.9	2	11.2	5	7.2	6	5
4	3407 旭化成	82.8	26.4	3	26.5	4	10.8	3	11.6	3	7.5	3	3
5	4188 三菱ケミカルホールディングス	80.7	26.0	5	25.1	7	10.6	5	11.5	4	7.5	3	8
6	4208 宇部興産	78.7	25.0	7	25.2	6	10.3	8	10.7	7	7.5	3	6
7	4204 積水化学工業	78.4	25.3	6	26.0	5	10.4	7	10.5	8	6.2	11	4
8	4185 JSR	75.7	24.2	9	23.7	10	9.9	9	11.1	6	6.8	8	7
9	3401 帝人	75.6	24.5	8	24.0	8	10.7	4	10.2	9	6.2	11	9
10	4042 東ソー	71.6	23.4	10	23.8	9	9.4	13	8.2	16	6.8	8	10
11	4217 日立化成	70.3	22.4	13	22.0	13	9.5	12	9.8	10	6.6	10	12
12	4091 大陽日酸	69.9	22.8	11	23.2	11	9.4	13	9.0	13	5.5	15	14
13	3402 東レ	68.0	21.9	14	21.4	15	9.7	10	8.8	15	6.2	11	15
14	4202 ダイセル	67.7	21.9	14	21.5	14	9.7	10	9.4	11	5.2	16	11
15	4063 信越化学工業	65.0	22.6	12	22.4	12	8.8	18	5.0	19	6.2	11	16
16	3405 クレレ	64.0	20.7	16	20.0	17	9.2	16	9.3	12	4.8	18	18
17	4118 カネカ	63.2	20.0	18	19.5	19	8.9	17	7.7	17	7.1	7	17
18	4088 エア・ウォーター	62.7	19.1	19	21.1	16	9.3	15	8.9	14	4.3	19	13
19	4612 日本ベイントホールディングス	60.7	20.5	17	19.6	18	8.6	19	7.1	18	4.9	17	未実施
	評価対象企業評価平均点	73.46	23.78		23.61		9.87		9.67		6.53		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は8.8点(昨年度7.0点)であった。

2018年度 評価項目および配点（化学・繊維）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (32点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどのように評価しますか。（IRの 重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等 ）	8
② 経営トップが説明会またはアナリストミーティングに出席し、今後の経営方針等について有意義なディスカッションをしていますか。	8
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分かつ正確な情報が、タイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	8
(3) IRの基本スタンス	
① フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。	3
② 非財務情報（ ESG情報等 ）の開示に積極的に取り組んでいますか。	3
③ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	2
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (32点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	8
② インタビューにおける補足説明は十分ですか。	8
(2) 説明資料等（ 短信・添付資料および補足資料を含む ）における開示	
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料が、TDnet経由で入手できますか。	4
② 説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていますか。	8
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	3
② 四半期ごとに業績動向に関する説明会（ 電話会議を含む ）を開催していますか。 [開催あり：1点 開催なし：0点]	1
3. フェア・ディスクロージャー	配点 (12点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	4
② 投資家にとって重要と判断される事項（例えば、 自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等 ）の開示は、遅滞なく行われていますか。	4
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供（ 決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等 ）を行っていますか。	1
(3) 説明会または電話会議のリプレイ	
・ 説明会または電話会議のリプレイ（ 質疑応答、議事録を含む ）は、速やかに電話やウェブキャストで視聴等ができますか。	2
(4) 外国人投資家向け情報提供	
・ ホーム・ページ、説明会資料、アニュアルレポート等の英語対応がなされていますか。	1
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (14点)
(1) コーポレートガバナンス・コード	
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。	2
(2) 目標とする経営指標等	
① 重視する経営指標（例えば、 営業利益率、ROE等 ）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。	3
② 中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況が、十分に説明されていますか。	3
(3) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策（ 資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株 ）に関し十分な説明がされていますか。	3
② 配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に、十分に説明していますか。	3
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (10点)
① 工場見学、事業部説明会、技術説明会等（ アナリスト主催を含む ）を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	6
② ファクトブック、アニュアルレポート、環境報告書等の内容は充実していますか。	2
③ 開示された公開情報について、E-mail等を利用して能動的かつ適切に周知していますか。	2

化学・繊維専門部会委員

部 会 長	竹内 忍	SMBC 日興証券
部会長代理	山田 幹也	みずほ証券
	岡寄 茂樹	野村證券
	澤砥 正美	SBI 証券
	野口 英彦	アセットマネジメント One
	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券

評価実施アナリスト（26名）

石井 大樹	第一生命保険	坪井 暁	ニッセイ アセット マネジメント
板倉 充知	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	中原 周一	東海東京調査センター
伊藤 健悟	QUICK	西平 孝	岡三証券
上迫 和也	三井住友信託銀行	根本 隼	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
大藤 修義	アセットマネジメント One	野口 英彦	アセットマネジメント One
岡寄 茂樹	野村證券	福島 大輔	野村證券
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
河井 啓朗	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	宮本 剛	UBS 証券
木村 光宏	野村アセットマネジメント	安岡 智史	三井住友信託銀行
齋藤 達哉	三井住友アセットマネジメント	山田 幹也	みずほ証券
澤砥 正美	SBI 証券	吉田 篤	みずほ証券
高橋 豊	極東証券経済研究所	渡辺 勇仁	大和証券投資信託委託
竹内 忍	SMBC 日興証券	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。